



今朝から隅田川沿いの恒例の月に一度のホームレスの住居撤去作業だが、見ていて腹が立つ。何十人も、作業着を着た人達が集まって、数日前に警告書を貼りにきてから、今日は片側から片づけていくのだが、毎月の恒例行事で、自転車で走りながらみているとばかばかしくて見てもらえない。ホームレスの人達は撤去予定地のすぐとなりの管轄外の橋の上に荷物をまとめて作業を見ていて、撤去している所に残っているのは捨てて欲しいゴミの山、もう少し自転車で走ると、撤去の最中で、お役所の人達がそれを一生懸命壊してはトラックに運んでいって、さらにもう少し走ると、その撤去隊が通り過ぎたすぐ後ろで、まだ撤

去作業が見える場所で、もうホームレスたつが金槌の音も高く復旧作業に精をだしている。少し先で撤去作業をしている人達はそこはすでに終わった所だから、もう何の関心もないのか、見ないふりをしているとしか思えない。ホームレスの問題がどうのと言っているわけではない。今日だけでも何十人もの人達が働いて、その分の予算をしっかりと使って、毎月毎月、実りのないことをつづけていっているその姿勢に腹がたってくる。あれでは、毎月ホームレスの人のために大掃除をしてあげているようなものだ。その目的でやるならそれでもいいが、そうでないのなら、機械が作業に行くわけではないのだから、もうちょっとやりようがありそうなものだ。その証拠に、毎回復旧作業が早まって、もう、半分バカにされているのか、見ている前でやられている。

働く人が、決められただけのことを、ただそれだけをいつまでもやっているというのは、人間にも問題があるけれども、そう思わせる仕組みにも問題がある。みんな互いに関心がないのだ。なぜ働いているかなんてどうでもいいのだ。

もっと、生き生きした生き物の社会でないと長くは続かない気がする。どんな集まりも、張りのある、怒号と、はじける笑いと、緊張した時間と、ほっとしたほほえみがなくなると。もう、持たない。一人一人がそうであると思うし、自分が果たしてそうになっていないかという自信も薄れてくる。飲み屋で、元気に叫んだ後、力無く笑ってはいけけないのだと。そう反省しています。

ノームは今月はお客さんが一つ減りました。新しい道を模索しています。いま、出来ることをしっかりやってゆかなければいけないと改めて考えています。

ノームはこのごろ時間がとれるようになりました。コンピュータで絵本を作る教室を始めます。ストーリーから一冊作るのに2回くらいだと思います。ご希望の方は連絡はメールか普通の電話で教えてください。

<http://www.interq.or.jp/japan/gnomes/gnomes1>

TEL/FAX 03-5600-0195 高村 哲 GnomesJpn@aol.com